

第2回復興まちづくり委員会(6/24)協議概要

1. 開会

2. あいさつ

<釜石市長>

仮設住宅の完成は6月を目処として進めており、今後仮設店舗も設置する。今後2~3年は仮設中心の地域活動となる。利便性を向上させていきたい。

今日はその後の釜石のあり様を考えるものであり、その骨子案を議論していただく。スケジュールは市議会、関係団体とも意見交換の上、今月中に案を調整し、7/11に骨子を公表したい。その後、基本計画に向けて随時修正を行っていく。

<小泉委員長>

まちづくりの全体像が見えないと仮設も手戻りになる。生活を守りながら、若い人が釜石に戻ってきてもらえるような、釜石に住みたいと思わせるようなまちづくり、計画であることが重要。

細かいこと、自分がどこに住むかとかではなく、この場合は復興について議論いただきたい。

3. 新任委員紹介(6月24日付け委嘱)

佐々木長三郎委員(釜石市消防団副団長)

吉田 哲 委員(三陸鉄道(株)運行部長心得) 菊池釜石駅長と交代

4. 若崎副市長紹介(6/3着任)

5. 議題:釜石市復興まちづくり計画骨子(案)について

事務局から資料、パワーポイント説明。

<質疑の概要>

Q:風間委員)

計画に雇用、安全性、利便性が盛り込まれ自分のイメージには合っている。質問は次の3点 釜石地域独自の技術力を活かすことについて 海洋関連と防災教育等との連携の有無 釜石港湾口防波堤復旧の目処

A:下澤産業振興部長)

はスマートグリッドの推進を考えている。 については、北里大、県水産技術センターとの連携により新たな海洋産業創出、大学誘致を目標とする他、防災教育との連携も進める。 については、関係機関が検証中であり、目処は明確化されていない。

Q:菊池正明委員)

早急なガレキ撤去が復旧・復興の原点。どんなに立派に釜石を再建しても、その前に釜石から人がいなくならないようガレキを早期に撤去してほしい。

A:佐々木副市長)

ガレキは国指針に基づき釜石市が撤去している。スケジュールは、生活に支障ある箇所について8月までに、支障のない箇所は来年3月までに仮置き場へ運搬する。「解体希望」の建物も来年3月までに解体撤去運搬。最終処分までに3年を予定としている。

Q:安久津委員)

仙台港のガレキが1か月前に全部撤去された。港が再開し、国の方針がなくとも力のある企業が独自の判断で進めたのではないか。釜石市は国の方針を待つのか、独自に進めるのか?

A:野田市長)

当市のガレキ撤去は仮置き場への運搬の工程にあり、市外への運搬はまだ進んでいない。大船渡は

太平洋セメントで焼却開始。釜石市も8月から開始したい。仙台の例も当市同様に市外へ搬出していないと思う。釜石市も商売ができるように必要な場所のガレキ撤去は進めている。

防波堤、防潮堤が破堤し、日常的な危険がある状況で、市として事業再開を自己責任で実行することは止められないが、仮設工場等での事業再開を誘導している。応募も多数だった。

市街地には撤去が必要な建物が多く、不特定多数を誘客するには問題があるので、避難路等の対策なども進めていく。斑模様に建物が残っているのが今後の課題で、地権者、地域を交え検討していく。

東部地区はやはり釜石市の中心・拠点として計画策定していきたいが、今以上の安全対策が必要。雇用は企業再建等により順調に推移しており、企業の協力に感謝。4/11に1,000人雇用を打ち出したが、ほぼ達成した。さらに1,000人雇用できるようにしたい。明るいニュースが伝えられる見込みであり、雇用については楽観視している。

Q：小田島委員)

力のあるものが事業再開することはもっともであり、どんどんやったらよいと考える。更地になったら自力で資金調達し、建設の目途を付けた。一方、迷っている方もいる。両者の差は仕方がない。

大槌、鵜住居では商店がなくて困っていると聞いている。更地にするには市の支援が必要。自力再建できる、できないで優先順位をつけて対応してほしい。

Q：高橋松一委員)

復興まちづくり懇談会で市民は災害の情報を共有した。(骨子案の)復興整備イメージに心強さを感じた。絵が示されれば市民も展望が描ける。あとはスピード感が重要。すぐさま国に要望する行動に移してほしい。

A：野田市長)

当市は他市町村に先がけて懇談会を実施。その目的は、事業内容、事業費などを取りまとめ、急いで国に要望するため。ただし、国の事情は当市だけ先行しても対応できないので、同盟会一体となって要望していく段取りで考えている。

北九州市ではスマートコミュニティに取り組んでいる。東北には事例がなく、当市でもスマートグリッド(スマートコミュニティ)に取り組むべく検討・調整している。スマートコミュニティは国家戦略でありまだ決まっていない。骨子案も動きがあれば必要に応じ修正していくが、次世代に誇れる釜石にしたい。

Q：高橋松一委員)

同盟会として取り組むことによって釜石市が遅れないよう素早く対応してもらいたい。県内でも当市は注目されていると思う。だからこそ、早めに行動すべき。市民の不安はガレキ、仮設住宅のこともあるが、自分たちがこのまちに住み続けたいことにある。今後の復興ビジョンを示すことで、市民の安心感、安らぎにつながるのではないかと。トップダウンでやってほしい。

Q：佐々木光一委員)

林道の避難路としての活用も検討すべきと考える。特に箱崎など。新日鉄に木質バイオマス10,000t入れた。今後も継続したい思いだ。

A：洞口建設部長)

今回の震災で尾崎白浜では林道を避難路に活用した事例がある。今後、同様に根浜等でも検討する。

Q：多田委員)

(骨子案に)JR山田線について、両石、鵜住居で“国道、鉄道の防潮機能”の記載がある。過日6/16に山田線の復興調整会議が行われ、釜石市も出席されたが、沿線各自治体からは復興のまち

づくりがまだ未定で、今後、鉄道事業者とも相談されると説明があった。

JRとしては、鉄道の防潮機能を否定するものでないが、盛土の高さ、構造、風対策、縦断勾配も検討が必要であり、乗客の安全が重要。

鵜住居地区は大槌とのつながりがあり、市町村単位で完結できないので、大槌町との連携も必要となってくる。JRとしても詳しい復興プランが示されれば、自治体と一体となって検討を進めたい。

A：洞口建設部長)

今後協議をお願いする。

A：山崎市民生活部長)

今後ともJR調整会議は開催する。また、三陸鉄道も会議を開催する。

Q：浦山委員)

箱崎半島の道路が寸断し孤立した。ぜひ、風車、太陽光発電など電力事情を踏まえた事業を導入してほしい。また、大槌湾への反射波も考慮した対策をお願いしたい。

市民文化会館の復旧を急いでほしい。現在、釜石駅前周辺がにぎわっており、時期を失せず、鎮魂の位置付けで第九コンサート、「劇団四季」の誘致、市民劇場の開催等々で東部地区の賑わい創出、慰問による文化の振興につなげたらよい。阪神淡路大震災でも文化が復興の力になった例がある。

A：久喜教育次長)

市民文化会館を早期に復旧したい。今年度は同館での事業は実施せず、「第九」は会場を変更して実施予定であり、「劇団四季」についても学校を活用して対応したい。

A：野田市長)

箱崎半島の風力発電等は、次世代に誇れる釜石として大きく謳っていきたい。原発問題もあることから、エネルギーの地産池消、再生可能エネルギー拠点として貢献できないか検討したい。

小泉委員長)

復旧、復興は並行で進めるべき。学校など100%の安全が必要。

Q：斎藤委員)

住宅地の高台移転を基本にしてほしい。海岸には従来どおり作業場(水産加工場)が必要であり、漁業から販売に至るまで幅広く雇用確保ができる。また、内陸部には大きな道路が必要であり、アクセス道路、避難道路も整備できるよう地域も協力したい。具体的な計画を早く提示されたい。

以 上